

開講科目名／Course	養護実習Ⅰ	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 3学期／Third	
開講区分／semester offered	3学期／Third	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	3	
主担当教員／Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名／Instructor	関根 剛、吉村 匠平	
必修・選択 ／compulsory subject	選択	
講義形態 ／Class Type	実習	
授業回数	20	
科目の目的と概要	児童生徒及び教職員との交流を通して、教師に求められる資質、自らの教師としての適性について省察する。養護実習Ⅰでは、学校への参加を通じて、学校で展開される教育活動、教職員及び児童生徒の学校での生活を、自身の体験を通して理解することを目的とする。	
到達目標	1. 公教育機関である学校が、どのような理念・体制の下、運営されているのかを説明できる。 2. 学校の教育活動がどのように展開されるのかを、教師としての立場から説明できる。 3. 担当した学年の児童生徒の学校における心身・生活の状況を説明できる。 4. 実習期間中の体験を、記録として整理する。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、4.連携協働・リーダーシップ、6.探求心と創造力	
授業計画	実習を通して、以下の内容についての学びを深める。実際の実習計画については、実習期間の学校の行事予定を勘案し、実習校が中心になって策定する。 1. 児童生徒、校内環境、教職員の職務についての理解 2. 学校運営計画、教育課程、校務分掌、服務規程など学校を支える制度についての理解 3. 校区を対象とした地域特性の理解 実習校：大分県内の小中学校で実施する。 実習期間：2026年2月中旬（実習校と調整して決定する）。	
その他の授業の工夫	実習期間中に、担当教員が実習校を巡回する。必要に応じて遠隔での指導を併用する。	
時間外学修	その日の実習で行われた講話内容、授業参観記録、日誌を記載し、翌朝、実習校の担当教員の確認を受ける（4h）。	
評価方法と評価割合	・実習校による態度・意欲面を中心とした評価（50%） ・実習日誌の記載事項に基づく知識、思考、表現面を中心とした評価（50%）	
テキスト		
参考書	改訂 養護実習ハンドブック（東山書房）	
履修する上で必要な要件	2年次が終了する時点で、下記①～③の要件を全て満たしている者に、養護実習Ⅰの履修を許可する。 ①修得した全単位の平均GPAが2.50以上である（小数点第二位以下切り捨て）。 ②進級試験に合格している（再試験での合格も可）。 ③卒業要件単位の未修得がない。	
その他	はじめての実習です。まずは、子どもたちとの交流をしっかりと愉しんでください。自分自身が子どもの目から見て楽しい大人であること、自分の感情状態を自分で調整することを、今まで以上に真剣に考えてください。学校で体験する様々な出来事を通して、色々なことを考え、感じ、自らの課題を発見し、今後の進路を現実的な課題として、引き受けることを期待しています。 実習校へ通うために必要となる交通費、給食費は自己負担となります。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士 関根剛：臨床心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	巡回指導時に、機会があれば教室の環境構成、児童等の作成物の見方などについて説明する。児童生徒との関係性の構築に関し、必要に応じて遠隔で指導する。	